

# 一茶年譜

和暦	西暦	一茶の 年齢 (数え)	主なできごと
宝暦 7	1757		五代目秋元三左衛門(俳号・双樹)生まれる。
宝暦13	1763	1	一茶、農家の長男として母の実家宮沢家で生まれる。名は弥太郎、父弥五兵衛、母くに。
明和 2	1765	3	母くにが死ぬ。
安永 6	1777	15	一茶、江戸へ出る。出郷後の消息は20歳ごろまで全く不明。
天明 2	1782	19	この頃、下総馬橋の俳人大川立砂(油屋)に奉公していたという伝承がある。
寛政 4	1792	30	江戸を出立。寛政10年まで西国に滞在。
享和 1	1801	39	一茶の父弥五兵衛(69歳)が死ぬ。遺産相続をめくり、継母・弟専六との対立がはげしくなる。
享和 3	1803	41	この頃は江戸に住み、流山を含む房総方面への行脚がしきりとなる。『享和句帖』を記す。
享和 4 (文化1)	1804	42	『文化句帖』を記す。流山の秋元双樹の『俳諧草稿』成る。
文化 5	1808	46	弟専六と亡父の遺産を折半する約束をする。
文化 9	1812	50	双樹が死ぬ。その葬儀に参列。
文化11	1814	52	常田久右衛門の娘きく(28歳)と結婚する。
文化13	1816	54	長男千太郎が誕生するが、まもなく死亡。
文政 1	1818	56	長女さと生まれる。
文政 2	1819	57	句日記『おらが春』成る。
文政 3	1820	58	二男が生まれ、石太郎と名づける。一茶雪道でころび、そのひょうして中風がおこる。
文政 4	1821	59	石太郎が、母の背中で窒息死する。
文政 5	1822	60	三男金三郎生まれる。
文政 6	1823	61	きく(37歳)が死亡。金三郎も死亡する。
文政 7	1824	62	ゆき(38歳)と結婚するが、ほどなく離縁する。 中風が再発して言語不自由になる。
文政 9	1826	64	宮下やを(32歳)と結婚する。
文政10	1827	65	柏原に大火があり、一茶の家も類焼する。 一茶、土蔵の仮ずまいで死ぬ。
文政11	1828		一茶未亡人やをに、やたが生まれる。